

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 61 回）議事概要（案）

日時：令和 8 年 6 月 3 日（水）13:00～15:00

場所：Web 会議（Teams）

出席者：

伊丹主査（東京理科大学）、大槻主査代理（慶應義塾大学）、
有賀専門委員（日本放送協会）、岩崎専門委員（東京農工大学）、
岡野専門委員（（一社）電波産業会）、甲斐専門委員（日本テレビ放送網（株））、
清水専門委員（（株）東芝）、鈴木専門委員（NTT（株））、
西川専門委員（（株）フジテレビジョン）、西田専門委員（（一財）日本 ITU 協会）、
濱崎専門委員（日本電気（株））、藤井専門委員（日本放送協会）、
堀淵専門委員（（株）テレビ朝日）、三木専門委員（（株）TBS テレビ）、
宮本専門委員（（株）テレビ東京）、明堂専門委員（（株）KDDI 総合研究所）

説明員：

朝倉氏（日本放送協会）、飯田氏（（株）フジテレビジョン）、大出氏（日本放送協会）、
近藤氏（（株）テレビ朝日）、薮氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課
柴田課長補佐、佐伯係長

【配布資料一覧】

資料 放-61-1	放送業務委員会（第 60 回）議事概要（案）
資料 放-61-2	WP6A 会合報告書（案）
資料 放-61-3	WP6B 会合報告書（案）
資料 放-61-4	WP6C 会合報告書（案）
資料 放-61-5	SG6 会合報告書（案）
資料 放-61-6	<u>次回会合に向けた今後の対応（案）</u>
資料 放-61-7	<u>勧告及び研究課題に係る提案の承認可否（案）</u>
資料 放-61-8	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-61-9	放送業務委員会構成員名簿
（参考資料）	
資料 放-61-10	<u>郵便投票関連文書</u>
（参考資料）	

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 開会

事務局より、新規構成員及び説明員が紹介された。

2. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

3. 前回議事概要の確認

伊丹主査より、資料 放-61-1「放送業務委員会（第 60 回）議事概要（案）」に基づき、第 60 回放送業務委員会の議事概要案の確認が求められた。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

4. ITU-R SG6、各 WP 会合の結果について

4.1. WP6A 会合の結果について

朝倉氏より、資料 放-61-2「WP6A 会合報告書（案）」及び資料 放-61-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑が行われた後、案のとおり承認された。質疑応答の概要は次のとおり。

西田専門委員：今回 ISDB-T3 の仕様が勧告に反映され、無事 SG6 を通過したことは大変喜ばしく、次回会合で ISDB-T3 の技術仕様を紹介するワークショップが開催されることになった点も、日本として大変ありがたい。会合後、既に二か月以上経過しているが、このワークショップの中身について何か具体的な検討が進んでいるかを伺いたい。ワークショップなので一方的な説明にならない形が望ましい。今回勧告に反映されたのは物理レイヤーの部分だが、ISDB-T3 は物理レイヤーだけでなく上位レイヤーも含めたシステムなので、そうした観点も含めて説明していただきたい。準備の状況はいかがか。

朝倉氏：次回ワークショップの趣旨は、今回勧告 BT.1877 に追記された ISDB-T3 の物理層に関するものである。勧告自体は表形式であり、それだけでは理解が難しいため、仕様を噛み砕いて解説するものと認識している。現在、ARIB の放送国際標準化ワーキンググループ及びその傘下の SWG-A が中心となってワークショップのアジェンダの作成を進めている。関連する ARIB 内の作業として、デジタル放送システム開発部会及びその傘下の関連する作業班の主任と調整を進めており、今後詳細を詰める予定である。アジェンダ案は 7 月の放送国際標準化ワーキンググループで報告予定である。

西田専門委員：着々と準備が進んでいると承知した。ぜひ次回の放送業務委員会でもワークショップの内容についてご説明いただきたい。また、ワークショップに合わせて技術的なデモンストレーションの場も設定されると聞いているが、何か進捗はあるか。

朝 倉 氏： 技術展示については、ワークショップの内容が確定しないと具体的な検討に進めないため、まずはワークショップの構成を固めた上で、対応可能な展示について関係者と調整していく予定である。

西田専門委員： ワークショップ及び技術展示が参加者にとって有意義なものとなることを期待している。

西田専門委員： 今後の対応の資料の中で説明があった勧告 BT.1306 の改訂草案に関して説明があった ISDB-T ワンセグメントの扱いについて確認したい。これまでマルチメディアシステム C としてワンセグは独立したシステムとして扱われていたが、今後は必ずしも個別システムとして扱う必要はないとの方向で修正を考えていると理解してよいか。

朝 倉 氏： 本件については、ARIB の会議でも課題として設定しており、WP6A と WP6B が共同で進めていく課題と認識している。ワンセグは ISDB-T の部分受信であり、この点については共通認識がある。ワンセグだけを特だしするよりは、ISDB-T 全体の枠組みの中でワンセグを記述する改訂として、BT.1306 に反映できるような寄与文書案を検討している。

西田専門委員： 単独システムではなく ISDB-T の機能の一部として明確化する方向と理解した。

4.2. WP6B 会合の結果について

飯田氏及び大出氏より、資料 放-61-3「WP6B 会合報告書（案）」及び資料放-61-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑が行われた後、会合報告書案に一部誤記修正を加えて承認された。質疑応答の概要は次のとおり。

甲斐専門委員： 今後の対応の資料の中で、レポート BT.2049 の改訂作業文書について、マルチメディアシステムとして ISDB-T ファミリーの扱いを検討・判断するという記載があった。WP6A と関連しているということだが、勧告 BT.1306 にワンセグに関する記述を ISDB-T システムとして記載していくことと関連しているのか、あるいは、ISDB-Tmm やシステム E の扱いを検討判断するとあるので、別途 ISDB-T ファミリー全般のことをこのレポートの改訂に向けて検討していくということなのか、意図を確認したい。

飯 田 氏： 私はラポータグループには参加していないのでラポータグループ自体の議論の中身については詳しく把握していないが、一つの文書だけではなく、いろいろな文書にいろいろな記載がまたがっている状態だと思うので、関係する文書全体について、ISDB-T ファミリー全体の扱いを全般的に改めて検討していくということだと認識している。

西田専門委員： ご指摘の文書はレポートであり、WP6A の報告の中で触れられたのは勧告である。こちらは他の ITU-R 勧告の記載をベースに、このレポートにどう反映するかという話だと思う。ISDB-T ワンセグメントは勧告 BT.1306 の方に集約する

ということなので、それを反映すればよい。ISDB-Tmm については、マルチメディアシステムを規定している勧告が別にあるので、その中で包含されているので、そこに記載がある限りはレポートの方も記載を削除するわけにはいかないと思っている。システム E は、衛星とのハイブリッドなシステムだが、勧告 BT.1833 には記載があったと思うが、これはもう使われていないシステムだというのが共通の認識なので、それ自体は削除して良いと思う。要は、他の ITU-R 勧告と整合するように、このレポートに記載されているシステムを整理することかと思う。

甲斐専門委員： BT.[HCCHANNEL] に関する作業文書への対応で、現状の内容の勧告化には反対の立場を取りつつという記載があった。3 月会合でも反対の立場を取った結果として、他の日本提案への影響が生じているので、実際に寄与を出す場合は、反対の立場は明記しない方法が模索できると良いのではないかと思う。

西田専門委員： 私もこの点を心配している。韓国から、日本が提案しているいくつかの勧告に対する異議が出ており、前に進められていないことも含めて、どうにかしなければいけないと思ってはいるが、妙案がないというのが正直なところ。BT.[HCCHANNEL]については、これまでも今の勧告の内容では合意できず、レポート化であれば受け入れ可能だとして、ある意味妥協案は示してきていると承知しているが、次回会合に向けては勧告としてどうすれば日本として受け入れられるかというところまで示すことができれば大変良いと思うが、なかなかそこが難しい。数年にわたって議論が平行線をたどっている。甲斐氏の懸念も共有しつつ、勧告としてどうすれば受け入れ可能になるかを検討できればよいと思っている。

甲斐専門委員： 報告書において「HDR-TV」が「HDR-T」と脱字があるので修正いただきたい。

4.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び近藤氏より、資料 放-61-4「WP6C 会合報告書（案）」及び資料放-61-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑が行われた後、案のとおり承認された。質疑応答の概要は次のとおり。

西田専門委員： 6DoF 音響システムの要求条件の新勧告草案について、韓国が異議を申し立てて前に進めなかったと承知している。要求条件を規定することのメリット・デメリットの検討が残課題とあるが、デメリットとして想定されるものがあるのか確認したい。

大出氏： 音声符号化の MPEG 議長で SWG6B-3 議長でもある Thomas SPORER 氏と、NHK の MPEG 担当者の 3 人で議論している状況。MPEG は伝送側の規格を検討しているため、制作側でこのような要件を規定してもらえることは都合が良

いという意見が出ている。基本的には都合が良いという話しか今のところ出ていない。デメリットとしては、要件を絞り込むことで自由度がなくなる可能性があると思うが、実際の放送や番組交換では、ある程度の範囲を規定する必要があるため、デメリットは基本的には存在しないと考えている。ただし、実サービスが始まっていないため、要件に漏れがあってははいけないと考えている。

西田専門委員： WP6C の最近の活動の印象として、寄与文書の数が増加しており、活動が低下傾向にあるように受け止めている。この点について、大出氏は SG6 副議長、SWG6C-1 議長としてどのように受け止めているのか、また今後どのようにしていくべきと考えているのか、考えがあれば聞きたい。

大出氏： ご指摘のとおりで、映像や音響について基本的な仕様は一通り整理されたと認識しており、活動が増加していくのは自然な流れと考えている。一方で、手話や字幕や音楽の可視化などの付加情報や、個人適応といった部分は今後放送としてやっていく必要があると考えている。映像・音声のフォーマット以外の部分でいくつか寄書が出せると良いと考えている。イマーシブメディアについては引き続き映像も含めて取り組んでいく。

西田専門委員： 今後も日本が議論をリードしていけるよう期待している。将来の放送に関するレポートが作成されており、その一つはコンテンツ制作の観点のレポートであるので、そこに盛り込まれているようなことを具体化していくことも取り組みがあるとよいと考えている。寄与しないと会合では議論にならないので、日本として頑張っていたきたい。

4.4. SG6 会合の結果について

部氏より、資料 放-61-5「SG6 会合報告書（案）」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。特段の質疑はなく、案のとおり承認された。

5. 勧告及び研究課題に係る提案の承認可否について

事務局より、資料 放-61-7「勧告及び研究課題に係る提案の承認可否（案）」に基づき、ITU から照会されている勧告改訂案等 3 件について説明が行われ、特段意見なく承認された。

6. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-61-8「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上